

## 川崎病罹患児の追跡調査成績

(分担研究：川崎病に関する研究)

藤田委由、中村好一、柳川洋

川崎富作\*

**要約** 川崎病研究班では53医療機関の共同研究として川崎病罹患児の追跡調査を行った。1982年7月から1988年12月までに調査医療機関を受診した全患者4,676名を対象に、1989年12月31日(死亡者は死亡日)までの追跡を終了した。追跡調査の成績がまとまったので、結果の概要を示す。

### 見出し語 川崎病、追跡調査、死亡

#### 【目的】

本研究は川崎病全国調査で報告された患者を医療機関単位で全員追跡し、川崎病罹患児の長期予後を明らかにすることを目的とする。

#### 【対象】

第8回から第10回の川崎病全国調査で報告された患者(初診年月日：1982年7月1日～1988年12月31日)で、第14病日以内に当該医療機関を受診した確実例かつ初発例(再発例は除く)とした。

追跡は医療機関単位で行い、偏りが起こらないように、当該医療機関で追跡対象の条件に当てはまる患者すべてを追跡対象とした。追跡の開始は

初診日、追跡の終了は1989年12月31日または死亡年月日とした。

対象者の生存、死亡の確認は、①1990年1月1日以降の当該医療機関の受診、②受診予定がない者は医療機関からの郵送調査、③受診を予定しているにもかかわらず受診しない者および郵送調査が不可能な者(回答しない、あるいは宛先不明)は住民登録確認、等のいずれかの方法によって行った。すでに医療機関からの情報で死亡が確認された者および上記の作業中に死亡が確認された者については死亡診断書による死因の確認を行った。

【解析方法】

各対象者について観察Person-timeを暦年・年齢ごとに計算し、各暦年・年齢の観察Person-timeの全対象者合計を算出した。それぞれの暦年・年齢において日本の人口動態統計より死亡率を求め、これを観察Person-timeに掛けたものを当該暦年・年齢の期待死亡数とする。全ての暦年・年齢の期待死亡数の合計を全体の期待死亡数（E）とし、観察死亡数（O）との比（O/E比）を計算した。

検定はポアソン分布を仮定して行った

【結果】

追跡対象者は表1に示すように4,676名で追跡終了日まで追跡できた者は4,608名(98.5%)であった。このうち死亡者は13名、生存者は4,595名で、途中で追跡不能になった者は68名であった。

対象者の観察人年は19,534.8人年で一人当たり平均4.2年観察したことになる。

川崎病既往児は表2に示すように一般の小児に比べて死亡危険が高く(O/E ratio 1.71,  $p < 0.05$ )、特に男児では著しい(O/E ratio 2.04,  $P < 0.05$ )。

表3に13名の死亡者の性、年齢、発症から死亡までの期間、死亡原因の一覧を示す。

Table 1 Summary of Follow-up

Total study subjects	4,676 (100%)
Follow-up completed	4,608 (98.5)
Death	13 (0.3)
Alive	4,595 (98.3)
Lost to follow-up	68 (1.5)

Table 2 Observed-expected No. of deaths

	Obs.	Exp.	O/E ratio
Total	13	7.61	1.71*
Male	10	4.90	2.04*
Female	3	2.71	1.11 ns

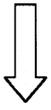
\* $p < 0.05$

Table 3 Summary of death cases

No	Sex	Age	Days after onset	Cause of death
1	M	2Y	4D	KD, myositis
2	M	2M	14D	KD, cor. aneurysm. heart failure
3	M	2M	18D	KD, mitral insuf.
4	M	1Y	20D	KD, acute enceph.
5	F	1M	29D	KD, mitral insuf.
6	M	4M	1.5M	KD, heart failure
7	M	11M	2M	injury
8	M	3M	4M	(unknown)
9	F	1Y	5M	(unknown)
10	M	1Y	1Y	KD, heart failure
11	M	7M	1Y10M	congen. heart dis.
12	F	1Y	2Y	congen. heart dis.
13	M	2M	4Y	(unknown)

資料 川崎病罹患児追跡調査 参加施設（順不同）

北海道大学医学部小児科	国立函館病院小児科
日鋼記念病院小児科	旭川市立病院小児科
函館中央病院小児科	伊達赤十字病院小児科
山形大学医学部小児科	山形市立病院済生館小児科
土浦協同病院小児科	自治医科大学小児科
東京大学医学部小児科	東京医科歯科大学医学部小児科
都立墨東病院小児科	日赤医療センター小児科
東京慈恵会医科大学小児科	東京女子医大第2病院小児科
日本大学医学部小児科	聖マリアンナ医科大学小児科
聖マリアンナ医科大学東横病院小児科	静岡県立こども病院循環器科
名古屋大学医学部小児科	京都第二赤十字病院小児科
国立循環器病センター小児科	近畿大学医学部心臓小児科
耳原総合病院小児科	大阪市立桃山市民病院小児科
箕面市立病院小児科	東大阪生協病院小児科
西淀病院小児科	大手前病院小児科
真美会中野小児病院	神戸市立中央市民病院小児科
明和病院小児科	兵庫県立西宮病院小児科
和歌山県立医科大学小児科	国保日高総合病院小児科
倉敷中央病院心臓病センター小児科	社会保険広島市民病院小児科
広島赤十字・原爆病院小児科	マツダ（株）マツダ病院小児科
広島市立安佐市民病院小児科	尾道総合病院小児科
国立福山病院小児科	三菱三原病院小児科
中国労災病院小児科	松山赤十字病院小児科
済生会今治病院小児科	久留米大学医学部小児科
小倉記念病院小児科	九州厚生年金病院小児科
聖マリア病院小児科	大牟田市立病院小児科
宮崎県立宮崎病院小児科	



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：川崎病研究班では53医療機関の共同研究として川崎病罹患児の追跡調査を行った。1982年7月から1988年12月までに調査医療機関を受診した全患者4,676名を対象に、1989年12月31日(死亡者は死亡日)までの追跡を終了した。追跡調査の成績がまとまったので、結果の概要を示す。